

日本の健康・医療・医学に貢献し、現役で活躍し続ける80歳以上の方々を顕彰する  
「第5回 山上の光賞」の授賞式を開催。5部門6名が受賞

公益社団法人 全日本病院協会(会長:猪口 雄二)、一般社団法人 日本病院会(会長:相澤 孝夫)、およびセルジーン株式会社(代表取締役社長:野口 暁)は、2019年5月21日(火)にパレスホテル東京にて、「第5回 山上(さんじょう)の光賞」の授賞式を執り行いました。

授賞式では、医師部門、研究者部門、看護・保健部門、NPO・ボランティア部門、公衆衛生部門の5部門6名の受賞者に記念杯が贈られ、受賞者の所属機関へ賞金100万円が贈呈されました。



本年度の受賞者は以下の通りです。(詳細はP2～P3をご参照ください)※敬称略

医師部門	鬼塚 卓彌 (おにつか たくや)(88歳)	昭和大学 名誉教授、特別顧問
	横山 宏 (よこやま ひろし)(91歳)	特定非営利活動法人山梨ホスピス協会 理事長
研究者部門	遠藤 正彦 (えんどう まさひこ)(82歳)	国立大学法人弘前大学大学院医学研究科 附属高度先進医学研究センター 糖鎖工学講座 名誉教授、客員研究員
看護・保健部門	江藤 信子 (えとう のぶこ)(91歳)	江藤助産所 所長
NPO・ ボランティア部門	富安 兆子 (とみやす よしこ)(85歳)	高齢社会をよくする北九州女性の会 代表
公衆衛生部門	加藤 邦夫 (かとう くにお)(88歳)	医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院 健康管理室 医師

## 「第5回 山上の光賞」受賞者(敬称略)

### 【医師部門】

鬼塚 卓彌(おにつか たくや) (88歳)

昭和大学 名誉教授、特別顧問

1956年東京大学医学部を卒業、同大学院にて整形外科を専攻し、三木威勇治教授に師事、整形外科と形成外科診療班に属した。大学院修了時、三木教授の指名で、原爆乙女の治療基金の留学生として当時米国形成外科の最高峰であったニューヨークのMt. Sinai病院のDr. Barskyのもとに留学し、形成外科最先端の技術を習得した。

帰国後1962年東大形成外科診療班に外向、1964年に中央鉄道病院に形成外科を新設、1968年昭和大学に赴任、形成外科を開設。教育面では、10年毎に教科書の刊行を行い、2018年に第5版を上梓、専門用語の和訳、新手術法の開発に関わる多数の論文を発表した。またアジア、欧米から多くの留学生が氏の元で学び、帰国後は母国の形成外科発展に尽力している。

国内学会では、評議員、理事、理事長、会長を歴任し、国際学会では、事務局長、理事、副会長、会長を務め、世界の形成外科の発展にも寄与した。

特に、日本では唇裂口蓋裂の患者が諸外国に比べ極めて多いことに気づき、1980年、昭和大学内に口唇口蓋裂治療を専門とするセンターを立ちあげ、小児科・産婦人科・耳鼻科・口腔外科・小児歯科・矯正歯科・言語治療士・ソーシャルワーカーなどによるチーム医療を日本で初めて開始した。手術した患者数は1万を超え、多くの患者の社会的生活を改善した。また、アジア諸国で海外協力隊を組織し、医療支援を行っている。

現在も日本並びに外国の関連する学会の名誉会員、特別会員を勤め、形成外科の創成期から現在まで、その発展に大きく貢献している。



横山 宏(よこやま ひろし) (91歳)

特定非営利活動法人山梨ホスピス協会 理事長

千葉医科大学医学専門部卒業後、山梨県内で地域医療に長年従事する。山梨県立中央病院院長を務めた1988年当時、ホスピスや緩和ケアの理念について正確な知識を持つ人は少なく、その重要性を説き、山梨ホスピス協会の創立に尽力した。山梨県内にホスピスを創るために協会員を募り、勉強会を開催。ホスピス設置のための署名活動の結果、2万人を超える署名を集め、1992年に念願の山梨ホスピス協会を創立し、翌年理事長に就任した。

同協会における横山氏の力強い後押しにより、2005年に山梨県立中央病院に緩和ケア病棟が開棟し、患者さんの心と病気に寄り添う医療を推進し、慢性期医療の発展・充実に大きく貢献した。

山梨ホスピス協会では緩和ケアに関する啓蒙活動を積極的に推進すべく、講演会、映画上映会、研修講座、緩和ケアに関する出版などを行っており、今なお横山氏は会の中心として活動を牽引している。緩和ケアの創成期から今日に至るまで、緩和ケアの礎を築いた功績は計り知れず、現役医師として地域住民への医療提供ならびに心に寄り添う診療を続けている。



### 【研究者部門】

遠藤 正彦(えんどう まさひこ) (82歳)

国立大学法人弘前大学大学院医学研究科

附属高度先進医学研究センター 糖鎖工学講座 名誉教授、客員研究員

弘前大学医学部卒業、東北大学大学院医学研究科修了後、弘前大学医学部教授就任。生化学、特に糖鎖工学を専門とし、学部学生や大学院生への教育・研究に長年貢献してきた。研究の過程で、プロテオグリカンの糖鎖の内部を分解する酵素を世界で初めて発見し、これを基にプロテオグリカンとヒアルロン酸の糖鎖を酵素的に合成するという糖鎖工学の道を独自に拓いた。一連の研究は世界的にも発表され、学術誌に掲載されるなど活躍は広く知られる。また、ヒアルロン酸の合成阻害剤(4-メチルウンベリフェロン)を世界で初めて発見し、これが抗腫瘍効果を有するということを明らかにした。学長を退任した現在も、この抗腫瘍剤の研究を客員研究員として続け、後進の良きロールモデルとなっている。

研究の中で、40余年前、世界で初めて石綿の被ばくにより発症する悪性胸膜中皮腫患者の腫瘍組織が、大量のヒアルロン酸を産生するということが遠藤氏によって発見され、これをきっかけにがんヒアルロン酸の密接な関係が世界中で研究されている。現在弘前大学では、遠藤氏を中心としたプロジェクトチームが、4-メチルウンベリフェロンを悪性胸膜中皮腫とすい臓がんの治療に適用させるための臨床研究に取り組んでいる。



## 【看護・保健部門】

江藤 信子(えとう のぶこ) (91歳)

江藤助産所 所長

1944年大分県立病院看護婦養成所に入学、1945年防空本部の伝令係の夜に大分空襲を体験した。戦中戦後にかけて外科・皮膚科看護師として負傷した兵士を看護し、1948年大分県立病院産婆看護婦養成所に入学、1950年出張型の助産所を開業。以来69年にわたり5世代にもわたる母子とその家族に関わり、現在も地域に根ざした助産師業務を続けている。

開業から39年間は地域の産婦人科医師と協働し、信頼関係の中、安心安全な自宅分娩に携わってきた。助産所のある津久見市は半島が広がっており、当初の交通手段は自転車で、晴雨にかかわらず峠を越し、家庭訪問を行った。また江藤氏の活動は単に助産業務だけでなく、母親が安心して子育てができるよう各々の家庭の状況に応じ妊産婦の生活全般にわたり支援をしてきた。現在もその姿勢が変わることはなく、沐浴や乳房ケア、保健指導や産着作りなどを通して、若い母親や時には姑の心に寄り添った活動をし、地域に信頼される助産師として多くの人から慕われている。

90歳を超えてなお、毎年開催される助産師会の全国や地区総会、研修会、学会、地域の学習会などに意欲的に参加し、生涯現役、生涯勉強の姿勢を貫き、母子のために自分にできることを全うしたいと活動を続けている。



## 【NPO・ボランティア部門】

富安 兆子(とみやす よしこ) (85歳)

高齢社会をよくする北九州女性の会 代表

1977年、自殺予防を目的とする「北九州いのちの電話」の設立に参画。開設時から電話相談を通じて自殺防止の活動に貢献し、のちに理事・相談員研修委員長等を務める。1985年には「高齢社会をよくする北九州女性の会」を発足させ代表に就任。北九州を中心に70代から80代の高齢者の低栄養改善と、社会的孤立を防ぐための配食活動の仕組みを作り現在もリーダーシップを発揮している。

また、女性の介護離職や子育て離職を防ぐために、子育て支援サービス「グランマ」や高齢者の見守りや話し相手、家事援助を中心とした高齢者支援サービス「やさしい手」を運営。このほか、DV被害者支援の「北九州シェルター」の運営や、北九州市立大学を拠点にした「コラボラキャンパスネットワーク」で、幅広い世代の男女、留学生といった様々な人々が交流しボランティア活動に参加しやすい場を創るなど、広範なボランティア活動を展開している。

女性、高齢者、青少年が抱える諸課題の解決に向け、世界50カ国あまりを訪れ、調査研究をし、現在の活動に活かしている。自らを必要としている「誰か」のために働くことを重視し、精力的に活動を続けている。



## 【公衆衛生部門】

加藤 邦夫(かとう くにお) (88歳)

医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院 健康管理室 医師

1960年に東北大学大学院で医学博士号を取得後、間も無く、医師不在の岩手県沢内村村立沢内病院に着任した。当時、財政難の沢内村は村民の健康状態もよくなく、病院の経営改革と村民の健康改善策に早急に取り組んだ。国民健康保険の自己負担金を払えない村民が多く、乳児と60歳以上の医療費を全額負担する条例を提案し、乳児と老人の医療費無料化を全国で初めて実施した。更に、村民の病気と死因の調査、全村民の健診を実施し、データに基づく生活・労働・環境改善、健康づくりの様々な施策を提案し、「村民が健やかに生まれ、健やかに育ち、健やかに働き、健やかに産み育て、健やかに老いて、120歳前後の限界寿命までも、人生を味あける人づくり・まちづくり」に尽力し、氏が提唱した「沢内方式健康住宅改善、長瀬野地区集落再編事業」をはじめとした施策により1963年には全国初の乳児死亡率ゼロを達成した。豪雪地帯の沢内村では居室を南側に配置し、冬でも太陽光が入る大きな二重窓の設置を推奨。また雪下ろし作業と落雪被害の回避のため、東西面急勾配の屋根と高床式住宅を提案し、全村に普及した。また減塩、大豆蛋白、ごま油、高野菜食等による食生活改善、更に農業労働改善を推進し、村民の健康水準向上と医療費の削減、国民健康保健税減税に貢献した。

1975年に仙台市衛生局にて、地方中核都市の保健・医療・福祉・教育・労働・建設等を包括する高齢化社会づくりの基本構想、基本計画策定を推進し、政令指定都市移行に尽力した。また1996年に仙台白百合女子大学教授に就任、大学の創設と女性の人材開発、及び福祉教育の実習教育施設の体系的整備に尽力した。2005年より医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院にて、高齢者医療確保法に基づく特定健康診査、特定保健指導の受入れ体制整備に努めると共に、医療講演、日々の人間ドック健診、メタボ健診、保健指導に尽力し、人々の生涯自立・生涯現役の健康・生き甲斐づくりに貢献している。



## 「山上の光賞」とは

「山上の光賞」は日本の広範な健康・医療・医学分野において素晴らしい活躍をし、よりよい社会を築くことに貢献している 80 歳以上の方々を顕彰するプログラムです。高齢化社会が進む日本において、後輩の進むべき道を照らす「山上の光」となるような貢献を続けている方々を顕彰することで、日本のシニアを勇気づけ、活発な社会の一員として活動し続ける素晴らしさを伝えることを目的としています。

## 【「第5回 山上の光賞」概要】

- 名 称 山上の光賞(さんじょうのひかりしょう)
- 共 催 公益社団法人 全日本病院協会  
一般社団法人 日本病院会  
セルジーン株式会社
- 後 援 日本医学会、公益社団法人 日本医師会、公益社団法人 日本看護協会、  
公益社団法人 日本精神科病院協会、一般社団法人 日本慢性期医療協会
- U R L www.sanjo-no-hikari-sho.com
- 顕彰部門 医師部門、研究者部門、看護・保健部門、NPO・ボランティア部門、公衆衛生部門
- 表 彰 記念杯を受賞者本人へ贈呈。  
又、各受賞者の栄誉をたたえ、同賞事務局より受賞者の所属機関等へ 100 万円の寄付が贈られます。

## 審査委員・諮問委員(五十音順、敬称略)

※各人は必ずしも所属先の代表として「山上の光賞」の審査委員／諮問委員を務める訳ではありません。

### 《審査委員》

安西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会顧問・ 学術情報分析センター所長	古川 貞二郎	恩賜財団母子愛育会会長、 元内閣官房副長官、元厚生事務次官
坂口 力	東京医科大学特任教授、 元厚生労働大臣	道永 麻里	公益社団法人日本医師会常任理事
樋口 恵子	NPO 法人高齢社会をよくする女性の会理事長、 東京家政大学名誉教授、 同大学女性未来研究所所長	向井 千秋	東京理科大学特任副学長、 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA) 特別参与
藤崎 一郎	一般社団法人日米協会会長、 元駐米大使	矢崎 義雄	公益財団法人 日本心臓財団理事長
		渡辺 允	元宮内庁侍従長、元駐ヨルダン大使

### 《諮問委員》

あべ 俊子	衆議院議員	谷合 正明	参議院議員
石田 祝稔	衆議院議員	とかしき なおみ	衆議院議員
今井 裕	東海大学医学部専門診療学系画像診断学教授	中山 泰秀	衆議院議員、自民党総務副会長
大塚 太郎	青梅慶友病院理事長	羽田 雄一郎	参議院議員、元国土交通大臣
大塚 義治	日本赤十字社副社長、元厚生労働事務次官	坂東 眞理子	昭和女子大学理事長・総長
河北 博文	公益財団法人日本医療機能評価機構理事長 社会医療法人河北医療財団理事長	福井 次矢	聖路加国際病院院長、聖路加国際大学学長
紀伊國 献三	公益財団法人笹川記念保健協力財団最高顧問	古川 元久	衆議院議員、元国家戦略担当大臣
幸田 正孝	医療経済研究機構顧問、元厚生事務次官	牧山 ひろえ	参議院議員
佐々木 伸彦	富士通株式会社執行役員副会長 元経済産業審議官	溝口 善兵衛	前島根県知事
塩崎 恭久	衆議院議員	三ッ林 裕巳	衆議院議員
新藤 義孝	衆議院議員、元総務大臣	百村 伸一	自治医科大学附属さいたま医療センターセンター長
高成田 享	元朝日新聞論説委員	森口 泰孝	東京理科大学特別顧問、元文部科学事務次官
立川 敬二	立川技術経営研究所代表 元宇宙航空研究開発機構理事長 元 NTTドコモ社長	吉澤 靖之	東京医科歯科大学学長
		渡辺 孝男	米沢市立病院事業管理者、元参議院議員

### 公益社団法人 全日本病院協会について

全日本病院協会は、昭和 35 年に民間病院を主体とした全国組織として設立、昭和 37 年 9 月に社団法人として認可、そして平成 25 年 4 月に公益社団法人として認定され、現在、約 2,500 病院が加入しております。

「全国の病院の一致協力によって病院の向上発展とその使命遂行に必要な調査研究等の事業を行い、公衆衛生の向上、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とする」という理念の下、「国民に安心・安全で質の高い医療を医療人が誇りと達成感を持って提供できるような環境整備を行う」という基本的考え方を実現するために、多くの活動を行っております。詳細は当協会ホームページをご参照ください。<https://www.ajha.or.jp/>

### 一般社団法人 日本病院会について

日本病院会は、会員数 2487 病院(2018.5)、日本の病院の全ての経営主体が参加する広範な会員組織です。昭和 26 年 6 月の創立以来、「病院の向上発展と使命の遂行を図り、社会福祉増進に寄与する」ために、「医の倫理の確立」と「病院医療の質の向上」を目指して活動してきました。平成 24 年 4 月より一般社団法人となり、この間、当会は病院の活動と病院で働く者の行動の規範を定め、絶えず自浄作用を促し、医の倫理の高揚に努めています。詳細は当会ホームページをご参照ください。<https://www.hospital.or.jp/>

### セルジーン株式会社について

セルジーン株式会社は、米国ニュージャージー州に本社をおくグローバルバイオ医薬品企業セルジーン社の日本法人です。セルジーン社は、血液、がん、炎症・免疫性疾患に対する新しい治療法を開発し提供しています。詳細は弊社ホームページをご参照ください。<https://www.celgene.co.jp/>